

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	child hands 大阪		
○保護者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 16日		～ 令和8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	外出や社会見学、クッキングなどの体験活動が豊富	外出や社会見学の際に、公共の場でのルールやマナーを守ること、日常生活に必要なスキルを身につけることを意識した支援を行っている	子どもたちがさらに意欲的に取り組めるような体験活動を増やしていきたい。
2	専門職が多く、子ども一人一人に合わせた支援ができる	日々の関わりや支援の中で困りごとがあった際など、スタッフで話し合いをしている	スタッフ間での情報共有や支援の統一を深め、より安定した支援を行ってきたい。
3	タブレットを使った学習や調べる活動ができる環境が整っている	調べ学習の際にタブレットを活用し、子どもたちが自分で情報を調べたり考えたりできるよう工夫している	子どもたちの学習がより伸びるように、タブレットの学習アプリを取り入れていきたい。 一人ひとりの理解度や興味に合わせて使うことで、学習意欲を高め、楽しみながら取り組める環境づくりを進めていきたい。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流や保護者会の実施ができない	仕事や育児で忙しく、事業所間での時間の調整が十分に確保することが難しい。	地域交流や保護者会の実施については、年間計画の中で日程を決め、計画的に取り組めるよう検討していく。
2	防災訓練は実施しているものの、実施回数や内容の充実という点では、まだ改善の余地がある。 子ども一人ひとりの理解度に合わせた訓練の工夫や、職員全体での役割確認・連携をより深めることで、緊急時におけるよりスムーズな対応体制の強化が必要である。	日常の活動や学習とのバランスを取りながら実施する必要があるため、防災訓練の時間確保に工夫が必要な状況である。	年間計画に基づき防災訓練を計画的に実施するとともに、子どもの理解に合わせた訓練内容の工夫や、職員間の役割確認を行いながら、安全でスムーズな対応体制の強化に取り組んでいく。
3	専門職それぞれが子どもに対して熱意を持って関わっている分、支援の方法や対応に少しばらつきが見られる	スタッフ一人ひとりがそれぞれの経験や専門性を大切にしていることが、対応の支援に統一感が出にくい。	スタッフ間で日々の関わり方や支援の工夫をしっかりと共有し、意見交換を重ねることで、より統一感のある支援ができるようにしていく。